

2022年度第2四半期 決算説明会 質疑応答

開催日 : 2022年11月9日(水)
出席者 : 代表取締役社長執行役員 大野 雅生
代表取締役副社長執行役員 加藤 孝明

1. 2022年度上期実績、通期見通しについて

Q. 材料費高騰の影響等、セグメント利益の内容について教えてほしい。

A. 【AC事業】

- ・半導体不足による減産影響が売上高で上期実績△40億円
- ・材料市況値上がり影響額は上期実績+36億円、通期見通し+106億円
材料市況売価回収額は上期実績+38.4億円、通期見通し+116.6億円
セグメント利益に対しては上期実績+2.4億円、通期見通し+10.6億円の影響
- ・販売費、荷造運賃増の影響で+4.2億円、通期見通し+8.5億円

【HC事業】

- ・半導体については大きな影響は出ていない
- ・材料市況値上がり影響額は上期実績+17億円、売価回収実績は+14億円
セグメント利益に対しては△3億円の影響

Q. 下期に材料市況値上がり影響額が大きくなる要因を教えてください。

A. 上期の値上がり影響を含んだ金額であるため、下期で影響額が大きくなっている。

Q. 材料以外の物流費、電力料上昇の回収を計画に織り込んでいるか教えてください。

A. 回収するというところで計画に織り込んでいる。

Q. AC事業、HC事業の2022年度業績計画前提について教えてください。

A. AC事業について、お客様からの内示情報をベースにしているが、半導体不足等不透明な部分もあるので調整を入れている。

HC事業について、基本的にAC同様お客様の内示情報をベースにしており、内示情報のお客様ごとの傾向を見て調整を入れている。

- Q. 収益力強化の注力項目としてあげていた次世代革新工場、仕様の統合の状況について教えてほしい。
- A. 仕様の統合については、市販 SA をベースに進めており、部品をサイズごとに一品番に絞ることで部品費を下げることを第一ステップとしている。その後、仕様統合した状態で市販革新ラインを導入し、ベンチマークに対して約 30%の原価低減を図っていくことを目標に活動をしている。
- Q. HC 事業の利益率が上期実績で悪いのだが、下期で挽回される背景を教えてほしい。
- A. 上期は新型コロナウイルスに伴う中国ロックダウン、客先クラスター発生による固定費増と材料市況回収の期ずれにより利益率が悪化したが、下期はその影響が小さくなるため。
- Q. HC 事業の電動化・自動化対応等の中長期的ポテンシャルについて教えてほしい。
- A. コロナで客先との対面ミーティングが難しい状況であったが、徐々に技術的な交流とお客様のニーズのヒアリングを対面で行えるようになってきている。電動化・自動化のニーズはあるので、引き続きそれに対応したアイテムの開発を進めていく。

以 上